



「今」この幸せを、生きていく——

人生で最も輝いた、夫婦の180日間。

象の背中

役所広司 今井美樹

塩谷 瞬 南沢奈央・井川 遥・高橋克実 白井 晃 小市慢太郎 久遠さやか 益岡 徹・手塚理美・笹野高史・伊武雅刀・岸部一徳

原作/秋元 康 (産経新聞社・扶桑社刊) 脚本/遠藤察男 音楽/千住 明 監督/井坂 聡

「象の背中」製作委員会/産経新聞社 松竹 テレビ朝日 ジェネオンエンタテインメント ポニーキャニオン 電通 扶桑社 USEN メーテレ 九州朝日放送 北海道テレビ デスティニー

主題歌/ケミストリー「最期の川」(デフスターレコーズ) オリジナル・サウンドトラック/千住 明 (EMIミュージック・ジャパン) Photo by Kiyotaka Saito 配給/松竹 www.zo-nosenaka.jp



NOT FOR SALE



話題の長編小説、待望の映画化!

多くの方々より、原作への賞賛の声を頂いています——

死を目前とした人間はこんなにも強く優しいのか。

秋元康に今度は小説で泣かされた。

林真理子氏 (作家)

単なる生と死のドラマではない。

苦悩と懺悔と解脱の道程を示す、現代の宗教説話である。

浅田次郎氏 (作家)

突如、胸をつきあげる熱いものに思わず嗚咽してしまった。

どうにも止まらぬ滂沱と流れる涙を

いかんとする術もなく、深い感動に身をふるわせて読了した。

児玉 清氏 (俳優)

今日より若い日は、もうありません。

だから大勢の人に読んでもらいたいと思います。

悔いのない毎日を過ごすために。

大沢悠里氏 (TBSラジオ「ゆうゆうワイド」パーソナリティ)

役所広司 今井美樹
塩谷 瞬 南沢奈央・井川 遥・高橋克実 白井 晃 小市慢太郎 久遠さやか 益岡 徹・手塚理美・笹野高史・伊武雅刀・岸部一徳
原作/秋元 康 (産経新聞社・扶桑社刊) 脚本/遠藤察男 音楽/千住 明 監督/井坂 聡
製作/名雪雅夫 松本輝起 早河 洋 片桐松樹 島本雄二 エグゼクティブプロデューサー/平田静子 北川淳一 亀山慶二 大倉 明 宇野康秀
企画/小滝祥平 梅澤道彦 秋元一孝 尾越浩文 遠谷信幸 プロデューサー/白石統一郎 水野政明 森谷晃育 芳川 透 岡田真由子 伊藤仁吾
撮影/上野彰吾 (J.S.C) 照明/赤津淳一 美術/金田克美 編集/阿部互英 録音監督/橋本文雄
「象の背中」製作委員会/産経新聞社 松竹 テレビ朝日 ジェネオンエンタテインメント ポニーキャニオン 電通 扶桑社 USEN メーテレ 九州朝日放送 北海道テレビ デスティニー
主題歌/ケミストリー「最期の川」(デフスターレコーズ) オリジナル・サウンドトラック/千住 明 (EMIミュージック・ジャパン)
Photo by Kiyotaka Saito 配給/松竹 www.zo-nosenaka.jp



文庫「象の背中」(産経新聞社・扶桑社刊) 定価650円(税込) 9月中旬発売予定
主題歌「最期の川」ケミストリー (デフスターレコーズ) 10月24日(水)発売
オリジナル・サウンドトラック「象の背中」千住 明 (EMIミュージック・ジャパン) 10月31日(水)発売
今井美樹ニューマキシシング (EMIミュージック・ジャパン) 11月7日(水)発売

10月27日(土)全国ロードショー | 大切な人に想いを綴る 特製・一筆便箋付 前売鑑賞券発売中! ¥1,300(税込)

丸の内ピカデリー1 03-3201-2881	渋谷ピカデリー 03-3770-1990	新宿ミラノ 03-3202-1189	池袋シネマサンシャイン 03-3982-6101	品川プリンスシネマ 03-5421-1113	MOVIX亀有 03-5629-7200	MOVIX昭島 042-500-5900	109シネマズ木場 03-5683-0109
109シネマズグランパリーモール 0570-012-109	ムービル 045-311-0330	MOVIX本牧 045-625-4766	109シネマズMM横浜 045-664-0109	川崎チネッタ 044-223-3190	109シネマズ川崎 0570-007-109	MOVIX橋本 042-700-3100	MOVIXさいたま 048-600-6300

※1枚につき1つ。
※無くなり次第終了します。
※一部劇場を除く。

日々を忙しく過ごし、生きているという意識さえ忘れてしまいそうなか、今この瞬間を生きていることが最大の幸せで、本当に大切なものが何かを気付かせてくれるのは、どんな時だろう。

誰もが迎える死。人はそれに直面した時、自分の鼓動の意味を知る。そして、あらためて自分の人生を振り返る時となるだろう。残りの人生をどう生き、どう死ぬのか。そして家族は、その決断をどう

受け止めるのか。そんな「生と死」、そして家族の絆、夫婦の愛のかたちを真正面からとらえた感動作が誕生した。

原作は、様々な流行を生み出し、時代の寵児と呼ばれてきた秋元康が手掛けた初の長編小説。監督は、「g@me」「Focus」の井坂聡。大人の上質なエンタテインメントとして、本作品でその手腕を発揮している。主人公・藤山を演じるのは、「SAYURI」「バベル」で国際的

「今」この幸せを、生きていく—— この秋、永遠に心に刻まれる愛の感動作が誕生します。

当たり前で過ごしてきた日常が、どれほど幸せなものであったのかを実感し、夫婦でいることの意味を知る。そして「今」が、かけがえのない時間となっていく——。

妻と2人の子供、幸せな家族4人。会社での地位も得て、順風満帆に暮らす48歳の中堅不動産会社部長・藤山幸弘(役所広司)は、今まさに人生の“円熟期”を迎えていた。だが、ある日突然、末期の肺がんと宣告される。

余命半年という医師の言葉に戸惑いながらも、藤山が選択したのは、延命治療ではなく、人生を全うすることだった。残りの人生が僅かなら、死ぬまで有意義に生きていたい…それは「死」を

覚悟するという意味ではなく、「生」への執着。彼は残された時間に、今まで出会った大切な人達と直接会って、自分なりの別れを告げようと決意する。思いを伝えられなかった初恋の相手(手塚理美)、些細なことで喧嘩別れした高校時代の親友(高橋克実)、絶縁していた実兄(岸部一徳)…言い残したことがある人達と再会し、自分が生きてきた時間を噛みしめる藤山。だが、妻・美和子(今井美樹)には、病気のことを話さなっていた。何と伝えればよいのか



な評価を受けた役所広司。末期がんで余命半年と宣告されながらも、最後まで自分の人生を全うしようとする主人公に扮し、追真の演技を披露している。そして妻・美和子には、20年ぶりの映画出演となる今井美樹。死に直面した夫の決意に動揺しながらも、彼の全てを受け入れ、支え続けようとする妻役を演じ切る。また、息子・俊介役

娘・はるか役に、今年の高校野球甲子園ポスターのイメージキャラクターを務める話題の新人、南沢奈央が扮するほか、井川遥、高橋克実、手塚理美、笹野高史、伊武雅刀、岸部一徳ら個性と演技力を兼ね備えた豪華キャストが集結し、重厚な感動ドラマを紡ぎ出す。

「今」という時間を生きる喜びと、人を愛することの尊さ——この秋、永遠に心に刻まれる愛の感動作をあなたに贈ります。



象は、自らの死期を察知した時、群れから離れ、死に場所を探す旅に出るといふ。自分の死を見せたくないのだろうか？
それとも、この世への未練を断ち切るためだろうか？
…俺には出来ない。ひとり、孤独のまま、姿を消すことは出来そうにない。
愛する者たちに見送られたい。

—23年間ともに生きてきた妻だからこそ、話せないことは他にもあった。

家族には、大学生の息子・俊介(塩谷瞬)にだけ事実を話し、母親の美和子と妹・はるか(南沢奈央)を支えるように伝えてあった。だが、彼が会社で倒れたことをきっかけに、その病名は医師から妻へと知らされる。夫が事実を隠していたことにショックを受ける美和子。なぜ延命治療を受けないのかと問う彼女に、藤山は未

来ではなく今現在を生きていたいと語る。美和子は思い悩んだ末、そんな夫のすべてを受け入れようと決意する。

会社も辞め、妻や子供たちとともに「今」を生きる藤山。そして、夫婦としてあらためて妻と向き合う中、彼は当たり前で過ごしてきた日常が、どれほど幸せなものであったのかを実感し、夫婦でいることの意味を知る。そして二人にとっての「今」が、忘れ得ない、かけがえのない時間となっていく——。

